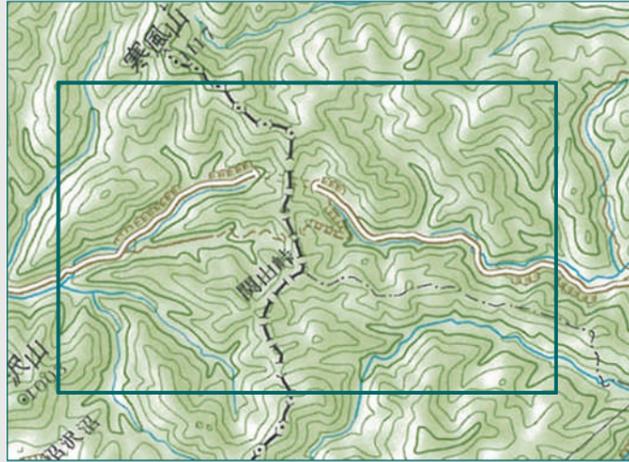


# 関山街道さんぽマップ

全5葉のうち (その5)  
〔作並深沢山～山形県関山萱倉山〕



制作／関山街道フォーラム協議会  
土の道部会  
協力／みやぎ街道交流会

【縮尺】 おおむね1:25,000 (4cmで約1km)  
500m 0m 500 1000 1500

## 〔関山街道さんぽマップについて〕

- 1) このマップは、八幡地区から関山峠を終えた区間までの関山街道沿線の歴史などの地域資源を探索出来るように作成したものです。(なお、関山峠を越えた区間からは、今後作成することを検討しています。)
- 2) 各地区で活動する団体が作成したそれぞれのマップ等を参考に統一した様式でとりまとめたものです。

## 【参考資料】

- 「歴史探訪 関山街道を歩く」(平川新編集、2009年)
- 「仙台領の街道」(高倉淳著、2006年)
- 「宮城地区雑記控(増補版)」(宮城地区郷土史探訪会、2012年)
- 「歴史の道調査報告書」(宮城県文化財保護協会、1980年)
- 「宝暦十一年奥州仙台領遠見記」(古文書を読む会編、宮城県図書館資料1)

## 〔関山街道フォーラム協議会について〕

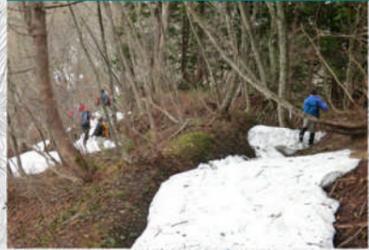
- 1) 関山街道フォーラム協議会は、関山街道沿線で活動している市民活動団体・企業・行政等が、地域の自然、歴史、文化、風土等の豊かな資源を掘り起こし、活用しながら地域活性化を目指している団体です。
- 2) 部会を設けて、「土の道部会」はマップ作成や探訪会等の事業を、「鉄の道部会」は関山街道と並行して走る山山線に焦点をあてた事業に取り組んでいます。

## 【地図の複製承認】

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分1地勢図及び2万5千分1地形図を複製したものである。(承認番号 平25 東複、第50号)  
第三者がこの地図を複製する場合は、国土地理院長の承認が必要である。

(平成26年1月制作)

R6 最後の急な下り



▲つづら折れを一気に下る

R5 峠部からの展望



▲遠くに出羽丘陵の月山※2

R4 峠を目指す



▲残雪残る「嶺渡り三里※1」

R3 嶺渡り古道・旧国道交差点



▲旧国道から古道へは急登

R1 嶺渡り古道入口(現駐車帯)



▲沢を徒渉してR2へ

R7 終点の沢



▲沢の徒渉が必要



沢の徒渉

R6

嶺渡り古道入口(駐車帯有り)

嶺渡り古道・旧国道交差点(前後急登)

旧国道・関山隧道宮城側坑口

旧国道・山形側入口(旧萱倉沢橋)

永唱橋

旧国道・関山隧道山形側坑口

嶺渡り古道

交通安全慰霊碑

旧国道・宮城側入口(駐車帯有り)

交通安全慰霊碑

N2 小山田新道からの眺望



嶺渡り古道

嶺渡り古道

嶺渡り古道

嶺渡り古道

嶺渡り古道

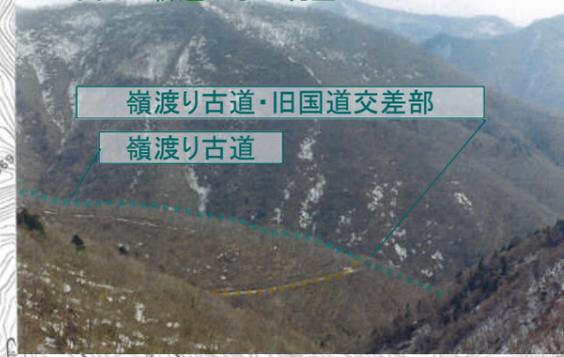
嶺渡り古道

嶺渡り古道

嶺渡り古道

嶺渡り古道

N1 小山田新道からの眺望



嶺渡り古道

嶺渡り古道

嶺渡り古道

嶺渡り古道

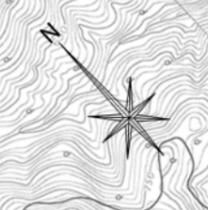
嶺渡り古道

嶺渡り古道

嶺渡り古道

嶺渡り古道

嶺渡り古道



### 関山街道散歩マップの解説 (作並深沢山～山形県関山萱倉山)

1) 街道沿線の歴史資源や探訪コースの目印となるポイントにそれぞれ番号を付して、おもて面の地図上の位置・番号と対比しています。

2) 各コースは次のとおりです。  
Rコース(関山街道嶺渡り古道)  
Mコース(明治時代以降の街道・旧国道)  
但し、県境の隧道は通り抜け出来ません。

3) なお、下記の写真・説明等は地図面に記載しています。  
R1, R3～6(関山街道嶺渡り古道)  
N1～2(小山田新道からの眺望)

#### ◆坂下御番所～関山隧道～嶺渡りコース

R1 嶺渡り古道入口 0.3km ↓ 0:15	R5 関山峠県境頂 1.2km ↓ 1:30
R2 坂下境目御番所跡 0.2km ↓ 0:30	R7 峠沢林道(旧国道) 2.5km ↓ 2:00
R3 旧国道交差部 1.0km ↓ 0:30	
M2 関山隧道(宮城側坑口) 1.0km ↓ 0:30	※1 距離は地図上で測定したおむねの値、時間も目安としてお使い下さい。 ※2 交通手段の路線バス等はありません。
R3 旧国道交差部	



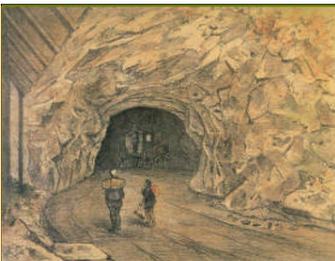
**M 2**  
関山隧道宮城側坑口

坑口は、鉄柵で塞がれており中にはいることは出来ませんが、山形側坑口の明かりが望める。



**M 3**  
関山隧道山形側坑口

上写真はトンネル銘板で(右から)「関山隧道」とある。下写真は平成24年4月28日の探訪会記念撮影。



**M 4**  
明治の関山隧道東口

『高橋由一 三島県令道路改修記念画帖 山形県之巻』(明治18年)より。隧道は明治15年竣工した。(延長284m、幅員5m、標高594m)



**M 5**  
昭和12年の関山隧道東口

明治のトンネルを、拡張改良し昭和12年に竣工した。(延長298m、幅員6m、標高(変わらず))写真には「竣工セル宮城県側隧道入口」とある。



**R 2**  
せきやまかいどうみねわたりののぼりくち  
関山街道嶺渡りの登口

関山街道嶺渡りの登口となる作並地区風倉沢と坂下沢の合流点に突き出た平地(国道48号の沢向かい)に並んでR1からR3の標柱・碑が建っている。



**L 1**  
さかしたさかいめごぼんしよあと  
坂下境目御番所跡

仙台藩が他領との境界に置いた境目番所の一つで、『奥州仙台領遠見記』によると宝暦8年(1758年)頃まで御境目守として「岩松長三郎」ほか1名が居住していたとされている。



**L 2**  
きゆうせきやまずいどうかいさくじゆんなんのひ  
旧関山隧道開鑿殉難の碑

明治13年7月、人夫のタバコの不始末で、工事用火薬箱が引火爆発、死者23名という大事故があった。50周年忌の昭和4年、現場となったこの坂下御番所跡に殉難の碑が建てられた。



**L 3**  
ひろせがわじょうりゆうたんのひょうちゆう  
広瀬川上流端の標柱

青葉城恋唄の一節「広瀬川流るるの岸、想い出はかえらず」で、その名が全国的に有名になった広瀬川。全長約45kmの広瀬川の上流端標柱が作並地区風倉沢と坂下沢の合流点のこの地にある。



**(山形側) M 3**  
国道49号と旧国道の交差部

国道48号関山トンネル山形側坑口から約2km先の交差道路(峠沢林道)が旧国道である。(写真は山形側から望む)



**M 3**  
M3～M4の間

交通止めと出ており、これからは徒歩で注意しながら進む。



**M 4**  
永昌橋

旧国道時代のコンクリート橋である。



**M 4**  
M4～M5の間

石積み擁壁もあり旧国道の旧観を残している。



**L 4**  
こうつうあんぜんいれいひ  
交通安全慰霊碑

現国道から風倉沢の橋を渡り旧国道のすぐ左側に昭和41年に不慮の事故で帰らぬ人になった2つの霊を慰めるため、1年後に友人一同、教師有志、親戚一同の建立した碑がある。

#### 旧国道を辿り関山隧道へ至る道

東北開発の拠点となる野蒜築港に着目した山形県令三島通庸は宮城県令松平正直と協議して、明治13年に関山トンネル工事に着手し明治15年に完成した。

関山隧道(トンネル)の開通によって馬車の通行が可能となり、交通量が増え、明治20年東北線の開通により関山街道の全盛期を迎える。しかし、明治34年奥羽線が開通すると、旅客や貨物は汽車に奪われ減少した。

後の昭和12年には、初代隧道を拡張する形で二代目関山隧道が作られた。

現在は、昭和43年に完成した別ルートの新関山トンネル(延長890m、幅員7m、標高531m)が国道48号として利用されている。



**(宮城側) M 1**  
国道48号と旧国道の交差部

国道48号関山トンネル宮城側坑口約300m手前の駐車帯から風倉沢に架かる古い橋を渡ると旧国道である。



**M 4**  
M4～M5の間

コンクリート擁壁もある。尾根筋に沿ってつづら折れに上って行く。途中、斜面崩落等もあり注意を要する。



**M 5**  
関山隧道山形側坑口

坑口は、木柵で塞がれており中にはいることは出来ませんが、宮城県側坑口の明かりが望める。また崩落も見える。



**M 5**  
「近代化産業遺産」認定

幕末・明治維新から戦前にかけて日本産業近代化に貢献した構造物として、経済産業省が平成20年度に認定したプレートがある。



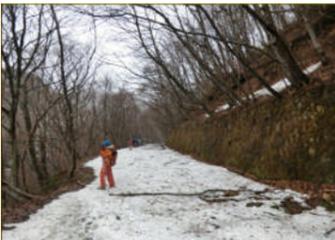
**M 5**  
明治の関山隧道西口

『高橋由一 三島県令道路改修記念画帖 山形県之巻』(明治18年)にある「北村山郡関山ヨリ宮城県下黒川郡作並村二通スル隧道西口ノ図」



**R 1**  
M1～R3間の旧国道

勾配はほぼ平坦である。夏場は藪となるため、春の残雪期から新緑前や晩秋の落葉後の探訪が望ましい。



**R 2**  
R3～M2間の旧国道

この区間もほぼ平坦な勾配である。途中、石積み擁壁が残っている区間がある。



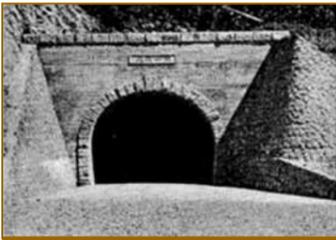
**R 3**  
R3～M2間の旧国道

途中、斜面崩落の区間があり、注意をして進む必要がある。



**R 3**  
R3～M2間の旧国道

途中、所々にガードレールが残っている区間がある。



**M 5**  
昭和12年の関山隧道西口

明治15年完成の関山隧道を拡張改良し、昭和12年に竣工した。(延長298m、幅員6m、標高(変わらず))

#### まぼろしの公道 小山田新道

小山田新道は、当初は猪野沢新道として始められた東根市猪野沢から仙台市新川までの延長30km弱の道で、関山街道における馬車道の先駆けとして、明治10年に完成した。

東根市猪野沢の小山田正見が私財を投じ、通行料金を徴収して工事費用の一部を償却することで、山形県からも下し金(補助金)を受けていた民活事業であった。

しかし、完成間近の明治10年に山形県令三島通庸(みちつね)が路線の変更を行い、この道を公道としての位置づけから外し、新たに、隧道方式による関山新道を明治15年に完成させた。

そのため、この道は広域交通路としての役割を果たすことなく、林業・生活道として近年まで利用されてきた。しかし、今では藪の下に道跡が残されているのみである。



**小山田新道**